高齢者の社会参加を促す工芸プログラムに関する試験・研究開発（第１報）

－福祉視点での工芸体験調査とプログラムの基本構成案－

Study on craft programs to promote social participation among the elderly (1st report)
－ Assessment of craft experiences and basic design of program from a welfare perspective －

工藤　洋司、赤田　朝子、濱田　圭、
小山内　筆子*、千葉　さおり*、高屋　喜久子**、川守　田礼子**、安部　信行**
（*弘前医療福祉大学・**八戸工業大学）

県や国においては、高齢者のフレイル予防に関する取り組みが活発に展開されている。フレイル予防には「身体・心・社会性」の三要素が重要であるが、現状としては「身体」に関する取り組みが多く、「心・社会性」に関する取り組みは少ない傾向にある。現在、「身体・心・社会性」に対応したフレイル予防に取り組んでいる職種として、リハビリテーション分野、特に作業療法士による治療が挙げられる。その活動の一環として「工芸体験」が導入されている。一方で、市中にて工芸士が実施している工芸体験は、フレイル予防効果が期待できるものであっても、特段フレイル予防的価値を伝えていないものと考えられる。

そこで、現行の工芸体験を福祉視点で調査するとともに、リハビリテーション技師と工芸士の専門性を融合させることで、工芸士が実施する「新たな工芸体験ビジネスの開発」を目指す。本年度の実績としては、以下を報告する。

- 体験プログラム基本構成（案）の作成：表 1 参照
- ３件の工芸体験に関する分析：南部菱刺体験・組子体験・漆塗体験
- 工芸体験キットとプログラムの一次試作：第 2 報、第 3 報
- 研究会の開催：研究説明会 7 月 19 日　/　中間報告会 2 月 17 日・18 日

表 1. 体験プログラムの基本構成案

工　程	目安時間 （全 90 分）	内　容	その他
導　入	9 分～15 分	説明・リラックス	相互に交流可能な状況を作る。
知る活動	20 分～30 分	情報提供と共有	歴史・文化を共有する。 ※20 分以上の講義は分割する。
創る活動	40 分～50 分	作業工程	時間内で完成する作業内容とする。 ※20 分以上の工程は分割する。
まとめ	15 分～20 分	発表と振り返り	作品を褒める。会話を促す。

※高齢者の集中時間は 15 分以内、作業療法の1単位は 20 分など、高齢者福祉や作業療法の観点を考慮し作成